

## 第 515 条

### 中断、音楽の不具合、不完全な演技

1, 中断とは、競技者が演技を止めた瞬間あるいは演技を止めるようレフリーが指示した瞬間のいずれか早いほうから、競技者が演技を再開した瞬間までを指す。

レフリーはいつが中断の瞬間であるのかを判断し、それを競技者、ジャッジ、テクニカル・コントローラーに伝える。競技者は、下記第 2 項、第 3 項、第 4 項、第 5 項に従ってプログラムを再開するものとする。

このとき、中断が要素の入りあるいは要素中であったか否かをテクニカル・パネルが判断する。要素の入りあるいは要素中であったと判断した場合、テクニカル・コントローラーは、その旨をすぐにレフリーへ伝えるものとする。

2, 音楽の不具合：

音楽のテンポや質に問題があり、その旨をプログラム開始から 20 秒以内にレフリーへ伝えた場合、競技者は、プログラムの最初から再滑走することができる。この報告が開始 20 秒より遅かった場合は、プログラムを中断したところから再開しなければならない。なお、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合には、その要素の直前から再開するものとする。

なにがしかの理由で音楽が中断あるいは停止した場合、競技者はそうと気づいた時点あるいはレフリーの合図音のいずれか早いほうで滑走を止めなくてはならない。

問題が解消されたら、競技者は中断したところから再開する。なお、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合には、その要素の直前から再開するものとする。

音楽の不具合による中断は減点の対象としない。

3, 競技者やその装備と関係のない不運な条件

競技者やその装備と関係のない不運な条件、たとえば照明、氷質、氷上に投げこまれた物など、が発生した場合、競技者はそうと気づいた時点あるいはレフリーの合図音のいずれか早いほうで滑走を止めなければならない。なお、競技者本人が気づいて滑走を止めた場合は、直ちにその理由をレフリーに報告すること。

問題が解消されたら、競技者は、中断したところから再開する。なお、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合には、その要素の直前から再開するものとする。その場合、テクニカル・パネルは当該要素に対するコールを行わないものとする。

中断が 10 分を超えて続いた場合は、第 514 条第 2 項に従い、2 回目のウォームアップの時間が与えられるものとする。その後、競技者は、中断したところから再開する。なお、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合には、その要素の直前から再開するものとする。

競技者やその装備と関係のない不運な条件による中断は減点の対象としない。

#### 4, 競技者および/またはその装備と関係のある不運な条件

競技者本人あるいはその装備と関係のある不運な条件が発生した場合（たとえば健康問題、鼻血、ひものほどけ、衣装やスケート靴の破損などが挙げられるが、これに限るものではない）、あるいは、競技者が演技中にケガをした場合、競技者は、そうと気づいた時点あるいはレフェリーの合図音のいずれか早いほうで滑走を止めなければならない。なお、競技者本人が気づいて滑走を止めた場合は、ただちにその理由をレフェリーに報告すること。

中断の長さ

a) 40 秒以下－不運な条件を遅滞なく解消出来る場合、競技者はレフェリーに報告する必要がなく、音楽の演奏も継続する。競技者が演技を再開した場合、レフェリーは第 353 条第 1 項 n) に定められた減点を適応する。40 秒以内に演技を再開しなかった場合、音楽の演奏を中止し、当該競技者は棄権とみなす。

b) 3 分以下－不運な条件を遅延なく解消することができず、競技者が 40 秒以内にレフェリーのもとを訪れた場合、レフェリーは、演技再開まで 3 分間の追加猶予を競技者に与える。追加時間は、与えられた瞬間から 3 分間である。なお、レフェリーは追加時間を与えた時点で音楽の演奏を停止するよう指示する。この追加時間内に演技が再開された場合、レフェリーは第 353 条第 1 項 n) に定められた減点を適応する。

問題が解決されたら、競技者は中断したところから再開する。なお、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合には、その要素の直後から再開し、テクニカル・パネルは当該要素に対するコールを行うものとする。

競技者が演技をやめるかやめるようにレフェリーから音で合図があるかのいずれか早いほうから 40 秒以内に競技者がレフェリーのもとを訪れなかった場合、あるいは、3 分間の追加時間以内に演技が再開されなかった場合、その競技者は棄権とみなす。

競技者やその装備と関係のある不運な条件による中断の場合、再開が許されるのは各回の演技において 1 回のみである。そのような不運な条件によって 2 回目の演技中断が起こった場合、その競技者は棄権とみなす。

5, 医療行為が必要と判断した場合、レフェリーは合図音で演技を止めるように指示し、その後、メディカル・プロトコール（コミュニケーション 2049 号あるいはその改訂版）に従う。競技復帰の可否は、当該チームの医師（そのような医師がいない場合はオーガナイザーが手配した医師）と相談し、レフェリーが判断する。演技中断から 3 分以内に競技復帰が許可されなかった場合、その競技者は棄権とみなす。レフェリーが演技の継続を認めた場合、第 515 条第 3 項が適応される。

問題が解消されたら、競技者は中断したところから再開する。なお、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合、その要素の直後から再開し、テクニカル・パネルは当該要素に対するコールを行うものとする。

#### 6, コールから開始の姿勢を取るまでの不運な条件

コールされてから開始の姿勢を取るまでの間に競技者やその装備と関係のある不運な条件が発生し、60 秒（第 359 条第 2 項）では解消出来無い場合、レフェリーは、第 353 条第 1 項 n) に定める減点 5.0 を適応した上で、3 分間の猶予を追加で与えるものとする。